

# 事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

## 1 事務事業の概要

事務事業名	コミュニティバス運行補助事業			事務事業コード	40650100
概要	コミュニティバス運行事業者に対する補助金の交付、検討会議の運営				
総合計画	基本施策	3	公共交通の利便性の向上	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	65	公共交通の利便性の向上	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成15年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市コミュニティバス運行事業補助金交付要綱、府中市補助金等交付規則				
市関連事業					
対象	京王バス株式会社				
実施の背景	交通不便地域の解消や、高齢者および障害者など交通弱者の社会活動の参加機会の拡大が望まれている。				
事業目標	交通不便地域の解消、公共施設への接続、高齢者および障害者など交通弱者の社会参加の促進等、市民生活の利便を図る。				
事業内容	コミュニティバス運行事業者に対する補助金の交付				

## 2 事業計画・評価

R 2年度実績 (Do)	R 2年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▼府中市コミュニティバス運行事業者に対する補助金の交付	▼運行事業者の京王バス株式会社に対し、要綱の定めるところにより補助金を交付した。なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用者が大幅減となったことから、予算の補正を行い、補助金の交付額を増額した。	



新規・レベルアップ
  継続
  見直し
  廃止
 R 2年度評価に基づく見直し (Action)

R 3年度の具体的な取組 (Plan)	R 3年度の方向性 (Plan)
▼府中市コミュニティバス運行事業者に対する補助金の交付	▼運行事業者の京王バス株式会社に対し、要綱の定めるところにより補助金を交付する。

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▼府中市コミュニティバス運行事業者に対する補助金の交付	▼運行事業者の京王バス株式会社に対し、要綱の定めるところにより補助金を交付した。なお、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により減少していた利用者数が想定よりも回復したことから、予算の減額補正を行った。	



新規・レベルアップ
  継続
  見直し
  廃止
 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▼府中市コミュニティバス運行事業者に対する補助金の交付	▼運行事業者の京王バス株式会社に対し、要綱の定めるところにより補助金を交付する。

令和5年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	地域公共交通計画推進事業の進捗に合わせてコミュニティバスの在り方を検討するとともに、引き続き要綱に基づき適正な補助金交付を行い、運行を継続する。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	3	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
コミュニティバスの年間利用者数	2,089,813	計画値 当初値	2,150,000	2,150,000	2,150,000	2,150,000	「コミュニティバスの年間利用者数」は増加傾向であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和2年度は約30%減、令和3年度は約15%減となった。「公共交通機関が利用しやすいと感じている市民の割合」はコミュニティバス以外の公共交通機関の影響を受けるが、概ね横ばいとなっている。
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	2,132,938	2,105,258	1,466,769	1,764,560	-	
公共交通機関が利用しやすいと感じている市民の割合	64.3	計画値 当初値	65	65	65	65	
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	67.5	62.9	66.7	66.6	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	2
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
<b>(事業費)</b>						
当初予算額	143,260,000	154,206,000	147,072,000	143,133,000	225,351,000	195,484,000
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	4,800,000	0
一般財源	143,260,000	154,206,000	147,072,000	143,133,000	220,551,000	195,484,000
予算現額	143,260,000	154,206,000	147,072,000	205,643,000	209,357,000	0
決算額	132,515,000	148,511,000	140,118,000	194,461,000	187,886,360	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	4,000,000	0
一般財源	132,515,000	148,511,000	140,118,000	194,461,000	183,886,360	0
執行率	92.5%	96.3%	95.3%	94.6%	89.7%	0.0%
<b>(人件費)</b>						
職員数	1.60	1.05	1.05	1.13	1.15	
職員人件費	12,290,598	8,244,779	8,433,553	8,705,853	8,885,628	
月額制会計年度任用職員数	0	0	0	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	0	0	0	0	
<b>(間接経費)</b>						
間接経費	137,731	127,438	111,158	67,791	63,293	
総コスト	144,943,329	156,883,217	148,662,711	203,234,644	196,835,281	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p><b>これまでの主な取組と成果</b></p> <p>ちゅうバスは、平成15年度の運行開始以来、路線の新設、路線変更、運行間隔の調整等を経て、現行の5路線7ルートで運行している。平成26年度から平成30年度にかけて、社会情勢の変化も踏まえ、今後のちゅうバスのあり方を検討するコミュニティバス検討会議を開催し、検討結果を踏まえた路線変更や停留所の設置を実施した。平成29年度の路線変更により、市内の交通不便地域は概ね解消された。利用者数は増加傾向にあり、近年では年間200万人を超える。また、利用者累計は平成27年度には2000万人を超え、令和3年3月に3000万人を突破した。</p>
<p><b>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</b></p> <p>ちゅうバスは、市民の欠かすことのできない交通手段となっているため、運行を引き続き継続し、利便性の向上を図りつつ、社会状況の変化に対応していく必要がある。コミュニティバス検討会議の報告内容等を踏まえつつ、適正なコミュニティバスのあり方を検討していくため、地域公共交通計画の策定を進める必要がある。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1062800	コミュニティバス利用実態調査事業費	6,053,000	5,607,360	
2	01	40	15	05	1078000	補助金 コミュニティバス運行事業費	218,632,000	181,703,000	195,044,000
3	01	40	15	05	1079000	補助金 コミュニティバス停留所等整備事業費	666,000	576,000	440,000
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							225,351,000	187,886,360	195,484,000

# 事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

## 1 事務事業の概要

事務事業名	鉄道等整備要請事業			事務事業コード	40650200
概要	鉄道やバスなどの利便性の向上や関連施設の整備について、関係機関に要望する。				
総合計画	基本施策	3	公共交通の利便性の向上	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	65	公共交通の利便性の向上	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	～	見直しの裁量
根拠法令等					
市関連事業	陳情計画、鉄道駅整備事業				
対象	鉄道事業者、バス事業者、国、東京都など				
実施の背景	公共交通の利便性や関連施設整備に対する市民ニーズなどに対応するため				
事業目標	公共交通の利便性や関連施設整備の向上				
事業内容	陳情計画に基づく陳情行動 三鷹・立川間立体化複々線促進協議会 多摩地域都市モノレール等建設促進協議会				

## 2 事業計画・評価

R 2年度実績 (Do)	R 2年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
第二4半期 陳情・要請行動（7月3日～8月31日） 東京都建設局・都市整備局、京王電鉄株式会社、京王電鉄バス株式会社 ・京王バス中央株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、西武鉄道株式会社  【書面開催】 三鷹・立川間立体化複々線促進協議会総会、 多摩地域都市モノレール等建設促進協議会総会	継続して取り組んだ。	

新規・レベルアップ
  継続
  見直し
  廃止
 R 2年度評価に基づく見直し (Action)

R 3年度の具体的な取組 (Plan)	R 3年度の方向性 (Plan)
第二4半期 陳情・要請行動 東京都建設局・都市整備局、京王電鉄株式会社、京王電鉄バス株式会社 ・京王バス株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、西武鉄道株式会社  【書面開催】 三鷹・立川間立体化複々線促進協議会総会、 多摩地域都市モノレール等建設促進協議会総会	継続して取り組む。

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
第二4半期 陳情・要請行動（7月6日～8月27日） 東京都建設局・都市整備局、京王電鉄株式会社、京王電鉄バス株式会社 ・京王バス株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、西武鉄道株式会社  【書面開催】 三鷹・立川間立体化複々線促進協議会総会、 多摩地域都市モノレール等建設促進協議会総会	継続して取り組んだ。	

新規・レベルアップ
  継続
  見直し
  廃止
 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
第二4半期 陳情・要請行動 東京都建設局・都市整備局、京王電鉄株式会社、京王電鉄バス株式会社 ・京王バス株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、西武鉄道株式会社  【書面開催】 三鷹・立川間立体化複々線促進協議会総会、 多摩地域都市モノレール等建設促進協議会総会	継続して取り組む。

令和5年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	中長期的な事業目標であることから、継続して事業を行う必要があるため。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
<b>(事業費)</b>						
当初予算額	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000
予算現額	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	0
決算額	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	63,000	63,000	63,000	63,000	63,000	0
執行率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
<b>(人件費)</b>						
職員数	0.49	0.37	0.37	0.63	0.25	
職員人件費	3,781,723	2,879,129	2,945,050	4,836,585	1,974,584	
月額制会計年度任用職員数	0	0	0	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	0	0	0	0	
<b>(間接経費)</b>						
間接経費	48,692	49,842	28,889	37,662	14,065	
総コスト	3,893,415	2,991,971	3,036,939	4,937,247	2,051,649	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<p>陳情行動については、鉄道駅においてエレベーターなどによるバリアフリー整備やだれでもトイレの設置が行われた。</p> <p>三鷹・立川間立体化複々線促進協議会に係るJR中央線三鷹駅立川駅間連続立体交差事業は、平成7年11月の事業認可、平成11年3月の仮線工事着手以降事業が進められ、平成22年11月に三鷹駅から立川駅間の全区間において連続立体交差となった。</p> <p>多摩地域都市モノレール等建設促進協議会に係る多摩都市モノレール事業は、多摩自立都市圏の形成を図る上で重要な公共交通網の根幹をなすもので、構想路線全線の早期事業化が望まれている。構想路線を含む全線9.3kmのうち、平成12年1月に多摩センター駅から上北台駅間の約1.6kmが開業し、平成25年度には1日平均の乗客数が12万9千人を超え、多摩地域の新しい交通ネットワークが、地域市民の足として定着してきている。</p>
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<p>事業の早期実現のため、継続して取り組んでいく。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	40	15	05	1075000	負担金 中央線三鷹・立川間立体化複々線促進協議会	33,000	33,000	33,000
2	01	40	15	05	1076000	負担金 多摩地域都市モノレール等建設促進協議会	30,000	30,000	30,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							63,000	63,000	63,000

# 事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

## 1 事務事業の概要

事務事業名	地域公共交通計画推進事業			事務事業コード	40650300
概要	府中市地域公共交通計画の策定及び推進、協議会の運営				
総合計画	基本施策	3	公共交通の利便性の向上	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	65	公共交通の利便性の向上	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成31年度～	見直しの裁量
根拠法令等	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱				
市関連事業	コミュニティバス運行補助事業				
対象	交通事業者（鉄道・バス）、国、東京都、市民など				
実施の背景	少子高齢社会において持続可能な公共交通ネットワークの形成を図る必要があるため。				
事業目標	本市における公共交通ネットワークの在り方、市民・交通事業者・行政の役割などを地域公共交通計画に定め、本計画を推進する。				
事業内容	府中市地域公共交通計画の策定に当たり、地域の現状把握や公共交通の概況整理等を行い、公共交通に関する市民の意向の把握・整理を行う。また、これらを踏まえて、地域公共交通の基本方針を作成するとともに、計画目標の設定や目標の実現に向けた施策・事業、施策展開プログラム等を検討する。なお、計画策定に係る検討体制として、地域公共交通協議会を立ち上げる。				

## 2 事業計画・評価

R 2年度実績 (Do)	R 2年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通に関する市民アンケートの実施</li> <li>本市の地域公共交通ネットワークの現状整理</li> <li>地域公共交通に関する課題の抽出</li> <li>府中市地域公共交通協議会の設置及び開催（1回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域公共交通計画の策定に向けて、市民アンケートの実施などにより公共交通に関する市民意向等を把握するとともに、本市の地域公共交通ネットワークの現状などを整理した。</li> <li>地域公共交通計画の策定等に係る検討体制として、府中市地域交通協議会を設置し、本計画の策定に向けた協議を開始した。</li> </ul>	

新規・レベルアップ
  継続
  見直し
  廃止
 R 2年度評価に基づく見直し (Action)

R 3年度の具体的な取組 (Plan)	R 3年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通に関する市民アンケートの詳細分析</li> <li>公共交通利用者等へのアンケートの実施</li> <li>ちゅうバス事業の再検証</li> <li>地域公共交通の課題の整理</li> <li>計画骨子案の作成</li> <li>府中市地域公共交通協議会及び部会の開催</li> <li>市民参加イベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に引き続き公共交通に関する市民意向等の把握・整理や本市における地域公共交通の課題整理などを行い、地域公共交通の基本方針などを盛り込んだ計画骨子案を作成する。</li> <li>計画策定の進捗よく状況に合わせて、府中市地域公共交通協議会及び部会を開催するとともに、計画骨子案に関する意見を伺うためのイベントを開催する。</li> </ul>

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通に関する市民アンケートの詳細分析</li> <li>公共交通利用者等へのアンケートの実施</li> <li>ちゅうバス事業の再検証</li> <li>地域公共交通の課題の整理</li> <li>計画の基本的な方針等の取りまとめ</li> <li>府中市地域公共交通協議会及び部会の開催</li> <li>地区別カルテの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、公共交通利用者アンケートの実施時期が大幅に遅れたことに伴い、当初予定していた「市民参加イベントの開催」「計画骨子案の作成」を次年度に延期し、計画の基本的な方針等の取りまとめを行なった。</li> <li>市民等の行動実態を把握するための資料として、各地区の現状・問題点や想定される課題をカルテ形式でまとめることなどが必要となったことから、当初予定していなかった「地区別カルテの作成」を実施した。</li> </ul>	

新規・レベルアップ
  継続
  見直し
  廃止
 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> <li>施策・事業、施策展開プログラム等の検討</li> <li>計画素案、計画案の作成</li> <li>市民参加イベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度及び令和3年度の取組を踏まえながら、計画目標の実現に向けた施策・事業、施策展開プログラム等を検討し、計画素案、計画案を作成する。</li> <li>計画策定の進捗よく状況に合わせて、府中市地域公共交通協議会及び部会を開催するとともに、計画の基本的な方針等や、計画素案に関する意見を伺うためのイベントを開催する。</li> </ul>

令和5年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	A	令和4年度に計画を策定する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりスケジュールに変更が生じたため、令和5年度も引き続き策定に向けた作業を行い、策定後は施策を推進していく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
<b>(事業費)</b>						
当初予算額	0	0	4,785,000	3,772,000	10,383,000	5,590,000
国庫支出金	0	0	0	0	4,856,000	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	3,800,000	2,900,000	3,900,000	4,100,000
一般財源	0	0	985,000	872,000	1,627,000	1,490,000
予算現額	0	0	4,785,000	3,772,000	10,273,000	0
決算額	0	0	3,588,750	3,749,934	9,820,938	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	2,800,000	2,900,000	7,000,000	0
一般財源	0	0	788,750	849,934	2,820,938	0
執行率	0.0%	0.0%	75.0%	99.4%	95.6%	0.0%
<b>(人件費)</b>						
職員数	0.00	0.00	0.24	0.88	0.89	
職員人件費	0	0	1,963,367	6,771,219	6,911,044	
月額制会計年度任用職員数			0	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	0	0	0	0	
<b>(間接経費)</b>						
間接経費			19,259	52,726	49,228	
総コスト	0	0	5,571,376	10,573,879	16,781,210	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p><b>これまでの主な取組と成果</b></p> <p>平成31年度において、地域公共交通計画の策定に必要な基礎調査を行った。令和2年度においては、市民の移動実態や公共交通に関する意向などを把握するため、無作為抽出した市民3,000人にアンケート調査を実施した。また、府中市地域公共交通計画の策定に向けて、プロポーザル方式により委託事業者を選定するとともに、検討体制として府中市地域交通協議会を設置した。令和3年度においては、市民の公共交通の利用実態等を把握するとともに、地域公共交通計画の基本的な方針（案）や計画目標（案）などの計画の方向性を取りまとめた。</p>
<p><b>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</b></p> <p>地域公共交通計画の基本的な方針に基づき、計画目標の実現に向けた施策・事業、施策展開プログラム等を検討したうえで、計画素案を作成し、市民の意見を聴くイベントを開催するとともに、令和5年度の計画策定に向けて準備を進め、策定後は施策を推進していく。</p>



6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	40	15	05	1058020	地域公共交通協議会運営費	670,000	426,938	508,000
2	01	40	15	05	1062520	地域公共交通計画策定費	9,713,000	9,394,000	5,082,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							10,383,000	9,820,938	5,590,000

# 事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

## 1 事務事業の概要

事務事業名	鉄道駅整備事業			事務事業コード	40650400
概要	鉄道事業者への助成を行い、バリアフリー施設整備の促進を図る。				
総合計画	基本施策	3	公共交通の利便性の向上	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	65	公共交通の利便性の向上	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成29年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市鉄道駅整備事業補助金交付要綱				
市関連事業	拠点整備計画作成事業、鉄道等整備要請事業				
対象	鉄道事業者				
実施の背景	鉄道施設のバリアフリー化に対する市民からの要望があるため。				
事業目標	鉄道事業者への助成を実施し、高齢者、障害者等の移動の安全性及び利便性の向上のための施設整備の促進を図る。				
事業内容	鉄道事業者への助成を行い、内方線付き点状ブロック及びホームドアの整備を図る。				

## 2 事業計画・評価

R 2年度実績 (Do)	R 2年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
事業実績なし	事業実績なし	

新規・レベルアップ
  継続
  見直し
  廃止
 R 2年度評価に基づく見直し (Action)

R 3年度の具体的な取組 (Plan)	R 3年度の方向性 (Plan)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>内方線付き点状ブロック整備への助成 西武多摩川線競艇場前駅</li> <li>ホームドア整備への助成 (～令和4年度) J R南武線府中本町駅・西府駅</li> </ul>	鉄道事業者が行う整備事業に対し、適正に助成を行う。	
R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> <li>内方線付き点状ブロック整備への助成 西武多摩川線競艇場前駅</li> <li>ホームドア整備に係る補助金交付決定 J R南武線府中本町駅・西府駅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西武多摩川線競艇場前駅における整備事業により、市内全ての鉄道駅ホームに内方線付き点状ブロックが整備された。</li> <li>ホームドア整備では、半導体不足による工期延長に伴い、J R南武線府中本町駅は令和4年度まで、J R南武線西府駅は令和5年度までの補助事業となった。</li> </ul>	

新規・レベルアップ
  継続
  見直し
  廃止
 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームドア整備への助成 J R南武線府中本町駅</li> <li>※ J R南武線西府駅は令和5年度に予定。</li> </ul>	鉄道事業者が行う整備事業に対し、適正に助成を行う。

令和5年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	ホームドア整備については、社会的な半導体不足の影響により、鉄道事業者の整備計画に変更が生じているが、府中本町駅は令和4年度に、西府駅は令和5年度に竣工予定である。鉄道駅ホームの更なる安全性の向上を図るため、今後もホームドア整備への助成を継続して行う必要がある。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない		
2 見直しには法令等の改正が必須		
3 見直しの必要性はあるが時期尚早		
4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	1	
1 見直し・縮小		
2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止		
2 廃止		
3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
<b>(事業費)</b>						
当初予算額	21,900,000	4,847,000	0	0	1,233,000	77,333,000
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	8,900,000	972,000	0	0	616,000	38,666,000
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	36,000,000
一般財源	13,000,000	3,875,000	0	0	617,000	2,667,000
予算現額	21,900,000	11,134,000	0	0	1,233,000	0
決算額	16,092,000	7,373,000	0	0	1,193,000	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	6,193,000	972,000	0	0	596,000	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	5,300,000	0	0	0	0
一般財源	9,899,000	1,101,000	0	0	597,000	0
執行率	73.5%	66.2%	0.0%	0.0%	96.8%	0.0%
<b>(人件費)</b>						
職員数	2.22	0.24	0.24	0.25	0.25	
職員人件費	17,017,752	1,919,419	1,963,367	1,934,634	1,974,584	
月額制会計年度任用職員数	0	0	0	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	0	0	0	0	
<b>(間接経費)</b>						
間接経費	219,117	33,228	19,259	15,064	14,065	
総コスト	33,328,869	9,325,647	1,982,626	1,949,698	3,181,649	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p><b>これまでの主な取組と成果</b></p> <p>内方線付き点状ブロックの整備への助成を行い、J R南武線府中本町駅・北府中駅及び西武多摩川線全駅の整備を促進した。 また、ホームドア整備では、J R南武線府中本町駅・西府駅の整備を促進した。</p>
<p><b>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</b></p> <p>市内鉄道駅ホームの更なる安全性の向上を図るため、引き続き鉄道事業者に対し、ホームドア整備に係る要望を行うとともに、整備事業に対する助成を行っていく。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1077050	補助金 鉄道駅整備事業費	1,233,000	1,193,000	
2	01	40	15	05	1077065	補助金 鉄道駅整備事業費 (債務負担行為解消分)			77,333,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							1,233,000	1,193,000	77,333,000